

[概要]

本稿では、富山県の進学校出身の女性を対象に、地方出身女性の進路選択に影響を与える要因を明らかにすることを試みた。各都道府県が示した調査やニュースにおいて、地方から出た理由として「閉塞感」が挙げられていたが、既存研究では言及されていない。そこで山内マリコの小説『此所は退屈迎えに来て』を用いて分析したところ、「閉塞感」とは『女性』という性役割に縛られるがため、自分の理想のライフコース歩めない」状態と定義づけられた。本稿の調査方法は以下の通りである。富山県立高岡南高等学校を2021年に卒業した女性10名に対して聞き取り調査を行ったのち、アンケート調査に参加したうちの5名に対してインタビュー調査を行った。その結果、進学を機に富山県を出るか否かにかかわらず、対象者の両親は子どもの望む通りの進路選択を勧めた。このように共通点も見られたが、県外に進学した者の方が「富山県の生活に不満を抱いている」、「理想のライフコースが明確である」という違いも存在した。なお「県外進学」が、理想のライフコースを歩めない地方から脱出するための手段として利用されていることが明らかとなった。本調査の結果によると、対象者たちにとって富山県には「閉塞感」があるように見られない。しかし、「女性」としての役割に囚われている部分も見られた。

キーワード：富山県，地方女性，転出超過，移動，進路選択